

公益財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会

公益財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会

I 法人の概要（平成 25 年 4 月 1 日現在）

1 所在地

北九州市小倉北区浅野三丁目 8 番 1 号

2 設立年月日

昭和 51 年 3 月 25 日

3 代表者

理事長 利島 康司

4 基本財産

2,482,723 千円

5 北九州市の出捐金

1,750,000 千円（出捐の割合 70.5%）

6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	10 人	0 人	1 人	9 人
常 勤	1 人	0 人	1 人	0 人
非常勤	9 人	0 人	0 人	9 人
職 員	45 人	8 人	1 人	36 人

II 平成 24 年度事業実績

1 総 論

当協会が、地域産業の活性化や地域のにぎわいづくり等において中心的役割を果たしていくため、西日本地域におけるコンベンション開催の拠点として、理想像である「北九州メッセ」の実現を目指し、次の方針で事業運営に取り組んだ。

- ・主催事業を有機的に連携して実施することにより、産業・貿易の振興、国際交流の推進を図る。
- ・コンベンションの誘致・開催により、北九州地域のにぎわいづくりに積極的に取り組む。
- ・お客様の満足度の向上と、より効果的・効率的な管理運営を行い、あわせて経費の節減に努める。

【概況】

平成 24 年度は、前年の震災により中止となったイベントの再開や、多くの市制 50 周年記念事業の開催などもあったが、さらに積極的に大型コンベンションなどの誘致・開催および貸館営業などに取り組んだ。

これらの取り組みが奏功し、展示場・会議場ともに稼働率、利用者数ともに前年度を上回った。

また、収支についても大幅な黒字となり、顧客サービス向上のための施設改修や、老朽化した備品類の更新等についても取り組むことができた。

しかしながら、市制 50 周年記念事業などの一時的要因の減少や、福岡市への一極集中、さらに複数の近隣他都市における同様な施設の設置計画など、中・長期的には楽観できない状況にある。

したがって、引き続き誘致・営業の強化や稼働率向上および経営の合理化を図り、これまで以上に自主自立の経営の確立を進めていかなければならない。

【平成 24 年度の取り組み】

① 主催事業への取り組み

西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施策や方針と連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催した。

② コンベンション誘致の強化

開催助成金制度を有効に活用し、国際・全国規模の学会・大会・展示会等の誘致に積極的に取り組み、国際コンベンションゾーンの更なる振興を図った。

③ 積極的な営業活動の実施

施設稼働率の向上に向け、より対象エリア・業界を広げた積極的な営業を推進した。併せて、施設利用者への広報支援等を充実させるなど、さらなるサービスの向上に努めた。また、特に閑散期における利用者増・収入増を目的とした取り組みも行った。

④ 小倉駅新幹線口地区魅力アップイベント開催の検討

平成 25 年 2 月の北九州市制 50 周年を記念して、様々な事業が実施されており、当協会の施設も、会場として利用された。

その際に、小倉駅新幹線口の地元や関係団体と連携し、当該地区の魅力アップとにぎわいづくりに資するため、市制 50 周年記念関連事業の主催者への協賛、支援、協力を積極的に行うなどの取り組みを行った。

⑤ 施設利用者の利便性向上

質の高い貸館サービスの提供や施設の快適な利用環境を確保するため、各施設・設備について、安全性を最優先に老朽施設の修繕や設備・備品の更新を推進し、施設利用者の利便性・満足度の向上に努めた。

⑥ 西日本総合展示場本館の改修等

本館の築 35 年経過による劣化等に対応するため、維持補修に加え、耐震診断調査に着手した。

見本市・展示会事業（公益目的事業）

(1) 西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の方針や施策との連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催した。

なお、展示会を巡る経済環境の変化に対応するため、新規出展社の確保に努めるとともに、展示会のリニューアルや新企画コーナーの実施など、各事業ごとに様々な工夫を凝らして、入場者および出展社への対策を講じた。

◆当協会が主催・共催した主な見本市・展示会

() 内は 23 年度実績

事業名	開催期日	入場者数	出展社数
西日本インポートフェア2012	5月2日 ～6日	49, 172人 (43, 215)	225社・団体 (222)
第52回西日本総合機械展	6月13日 ～15日	15, 696人 (15, 063)	43社・団体 (36)
第38回ふくおか産業技術振興展			32社・団体 (32)
第34回西日本陶磁器フェスタ	9月14日 ～18日	49, 284人 (49, 458)	192社 (199)
エコテクノ 2012	10月11日 ～13日	27, 588人 (27, 497)	173社・団体 (168)
エコ・ベンチャー・メッセ2012			49社・団体 (34)
中小企業テクノフェア in 九州2012			43社・機関 (41)
九州・国際テクノフェア2012	11月14日 ～16日	12, 404人 (14, 064)	16社・機関 (63)
再生可能エネルギー先端技術展2012			75社・機関 (42)
P. P. C. 2012 第14回西日本国際福祉機器展	11月9日 ～11日	25, 546人 (25, 055)	125社・団体 (181)
第32回西日本トータルリビングショー			
合計	11事業	179, 690人 (174, 352)	973社・他 (1, 018)

【事業の効果的な推進に向けた主な取り組み】

ア 大型コンベンションとの同時開催

共通のテーマを持つ展示会とコンベンションを同時開催することにより、その相乗効果による商談や交流機会の促進を図り、産業振興やにぎわいづくりの創出に取り組んだ。

- 「エコテクノ 2012」と「日本青年会議所第 61 回全国会員大会北九州大会」の同時開催
日本青年会議所大会と同時に開催するため、エコテクノの会期を変更し土曜日を含む日程とした。青年会議所会員の来場を誘致するため、事前に大会事務局と協議して相互に配布物等においてPR活動を実施した。
- 福祉・医療をテーマに「西日本国際福祉機器展」と「第 7 回 北九州アジア太平洋アクティブ・エイジング会議 2012」の同時開催
昨年、「九州理学療法士・作業療法士合同学会」との合同開催により、専門職の学会参加

者が多く来場するなど、福祉機器展の出展社に大変好評を博した。そこで、本年度も「第7回 北九州アジア太平洋アクティブ・エイジング会議 2012」のジョイントプログラムとして「福祉機器展ツアー」を実施。海外の学会参加者の多くが見学に訪れるなど大変好評であった。

イ 見本市・展示会の再構築

各展示会の目的や意義と、社会・経済情勢などを勘案しながら、常に開催内容を見直しつつ、関心を高める努力を行った。

○ 「西日本総合機械展」をリニューアルし、「西日本製造技術イノベーション」へ

西日本総合機械展の企画コーナーとして、航空宇宙産業や医療機器等の先端技術を紹介する「次世代産業技術展」を開催。

地元企業のニーズとして、他の成長分野への参入を模索していることがあり、来場対象を医療・福祉、製薬、環境、食品、化学・素材等に広げ、様々な製造技術分野における高度な取り組みを紹介していくこととした。そのため、平成25年度に向けて、工作機械見本市のイメージが強い従来の名称を「西日本製造技術イノベーション」へと変更することとした。特にモノづくりの技術を応用して進められる「医歯工連携・医療機器産業参入」に重点を置き、25年度は同テーマの記念セミナーを北九州医歯工連携研究会（事務局：北九州産業学術推進機構）と連携して開催するよう企画した。

○ 「水素エネルギー先端技術展」を「再生可能エネルギー先端技術展」として展示内容を拡大して開催。

従来の「水素エネルギー分野」に、太陽光・風力などの再生可能エネルギー分野を加え、展示内容を拡充して「再生可能エネルギー先端技術展」として開催、出展社は42社・機関から75社・機関へと大幅に増加した。

○ 西日本トータルリビングショーの発展的解消

これまで住宅関連展示会として開催してきたが、経済状況の変化や業界の方針転換などにより、福祉分野や環境分野からの出展を除いて、核となる住宅関連の出展が大幅に減少しており、開催を続ける意義が薄れてしまっている。そこで出展対象者をそれぞれの専門分野により特化させ、福祉関連分野は西日本国際福祉機器展へ、環境関連等の分野はエコテクノや再生可能エネルギー先端技術展などの当協会主催の他展示会へ移行することにより、福祉関連分野と環境関連分野の展示会を充実・強化する形で平成24年度の開催を最後に、発展的解消を行うこととした。

(2) 主催事業と並行して関連するセミナー、シンポジウムを開催した。(100テーマ、参加者数：4,704人)

(3) 展示会・商談会を活用した中小企業のビジネス支援や産学官の連携、海外交流等を行った。

会議・大会等

(1) 国際会議や大型のイベント、スポーツ大会をはじめとした会議・学会等の誘致件数の増加を目指して、全国のキーパーソンへの積極的な誘致活動などを行った。

その結果、大規模な国際会議や全国規模のスポーツ大会等の誘致に成功し、これまでで初めて開催実績が200件を超えた。

なお、J N T O（日本政府観光局）が作成した「M I C E開催による経済波及効果測定モデル」によれば、24年度の当協会の誘致案件のみによる経済波及効果（間接2次波及効果、雇用効果を含む）の推計値は92億58百万円であった。

◆年度別開催件数の推移 (単位：件)

区 分	国際	全国	その他	合計
24年度	55	83	70	208
23年度	38	61	67	166
22年度	56	68	75	199

◆年度別参加者数の推移 (単位：人)

区分	国際	全国	その他	合計
24年度	31,584	95,654	55,645	182,883
23年度	24,964	56,833	61,930	143,727
22年度	38,165	50,033	42,581	130,779

(2) 北九州市コンベンション開催助成金の拡充を受け、積極的に誘致活動を行った結果、24年度には延べ208件の開催、25年度以降には100件の開催が予定されている。

◆24年度開催の主な会議・大会

規模	名 称	開催時期	会 場	参加者数 (人)
国際	衛星帯電技術国際会議	5月	北九州国際会議場	715
	I C G E C	8月	北九州国際会議場	528
	I S M E 2012	8月	北九州国際会議場	213
	精密工学会全国大会	9月	九州工業大学	3,600
	日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会・アジア太平洋インプラント学術集会	12月	北九州国際会議場	1,220
	International Coference on Asia Urban Enviroment and Compact City	2月	北九州学術研究都市	620
全国	全日本大学総合卓球選手権大会	7月	市立総合体育館	3,800
	日本数学教育全国研究大会	8月	アルモニーサンク	5,000
	全国商工会議所女性会連合会 北九州全国大会	10月	西日本総合展示場	3,000
	日本青年会議所 全国会員大会	10月	メディアドームほか	35,000
	電気学会センサ・マイクロマシンと応用システムシンポジウム	10月	北九州国際会議場	1,800
	日本小児感染症学会総会・学術集会	11月	西日本総合展示場 北九州国際会議場	3,000
九州	九州地区高等学校PTA連合会大会	6月	西日本総合展示場	3,500
	九州山口薬学大会	9月	北九州国際会議場	6,606
	茶道裏千家淡交会 九州地区大会	10月	西日本総合展示場	4,100

(3) 主催・共催事業については、北九州国際会議場の大型ハイビジョンを活用した映画の上映や俳句等の文化事業や異業種交流を目的とした事業や小倉駅新幹線口にぎわいづくり事業など、子どもから年長者まで幅広い年齢層を対象にした特色のある各種事業を実施した。

◆ イベント・大会等の企画、開催（主催・共催） ※（ ）内は23年度実績

事業名	開催月	入場者数
小倉まちづくりミーティング泡盛ナイトinこくら (旧コンベンションサロン「北九州泡盛会」)	H24年7月 H25年1月	延べ540人 (延べ480人)
夏休みこどもシアター	7月	354人 (365人)
冬休みこどもシアター	12月	293人 (331人)
第12回全国女性俳句大会 in 北九州	H25年3月	1,514人 (1,465人)
第21回北九州ハイビジョン将棋フェスティバル	3月	837人 (810人)

貸館利用者の誘致・営業強化

(1) 利用者のニーズを掘り起こし、施設の多用途の利用を提案することで、新規利用者の開拓に取り組んだ。また、メディア・周辺施設との連携による集客支援や利用サービスの向上を図り、利用者の成果の向上に努めた。

さらに、集客支援のために協会が同時に開催する事業の実施なども含め、これまでより一歩踏み込んだ提案をすることで、既存イベントの高度化、大型イベントの誘致を実現した。

(2) 主な取り組み実績は、以下のとおり

ア 大型展示会・イベント（本館・新館大展示場利用）の誘致件数は、前年比50%増となる30件に達し、大幅な収益増加につながった。

イ 年末・年始イベント「巨大ダンボール迷路&ふわふわランド」、「こくらdeフリマ」を企画・主催したことで、同時開催のイベントに対し、売上及び来場者数の増加といった相乗効果があった。

◆ 24年度 主な各種イベント等誘致実績

名称	開催月	入場者数
⑨ 井筒屋・家具とリビング用品の大祭典	4月	700人
ファニチャーメッセ in KOKURA2012	5月	12,000人
⑨ トーホーフードサービス北九州支店移転記念展示商談会	5月	1,300人
⑨ パナホーム北九州感謝祭	5月	1,200人
将来のジブンを考える、1日。	6月	500人
⑨ ネットドライブフェスタ in 北九州	9月	20,000人

ファニチャーメッセ in KOKURA2012	9月	12,000人
井筒屋・家具とリビング用品の大祭典	9月	500人
⑨ B-1 グランプリ in 北九州 魅力発信！北九州フェア特設展示	10月	☆ 610,000人
⑨ DISわあるど in 北九州	11月	2,026人
北九州アイススケートセンター	11月	60,000人
2012 ウェルディングフェスタ in 北九州	12月	2,500人
⑨ 福岡大恐竜博	12月	29,900人
⑨ 巨大ダンボール迷路&ふわふわランド	12月	14,000人
北九州ソーシャルビジネスメッセ 2013	H25年2月	6,000人
⑨ こくら de フリマ	2月	6,000人
ひびしんビジネスフェア 2013	2月	4,260人
平成 25 年度産業医科大学医学部入学試験	2月	1,328人

※⑨は新規案件等

☆入場者数は、2会場（勝山公園一帯、あさの汐風公園一帯）の合計

広報・宣伝、地域連携

- (1) 広報・宣伝活動として、インターネットやリーフレットなど、様々な広報媒体を組み合わせるメディアミックスの手法を活用し、協会施設およびイベントのPRを行い、施設利用者および来場者の掘り起こしに取り組んだ。
- (2) 地域連携として新幹線口エリアの地域振興団体と共同で、異業種交流会（再掲）や地域清掃イベントを行うなど、地域のにぎわいづくりにも取り組んだ。
さらに、JR主要駅に近接しているという施設の特徴を生かすため、JR九州との連携による、効果的な主催事業等のPRを行った。

管理・運営

- (1) 西日本総合展示場本館・新館及び北九州国際会議場について施設管理者として公正かつ適正・効率的な管理運営を行うとともに、利益として得た余力の中から、一層のお客様サービスの向上、安全・安心を目指した施設設備の改善・充実に努めた。
また、閑散期における展示場および会議場の利用者増および収入増を目的に、利用料金の見直しなどについての検討にも着手した。
- (2) お客様満足度の向上については、「サービスの向上」を主眼に、利用に関する規程や料金等、重要事項の説明や事例紹介の際にタブレット型情報端末を導入したことにより、利用希望者への説明をより分かりやすく円滑に行うことが出来た。
また、受付チェックシートを作成し、重要事項の説明の漏れなどによるトラブル防止に取り組んだ。

施設面では、利用者の要望に沿って、公衆無線LANのアクセスポイントを新館、AIM3階、本館それぞれに設置し、平成25年度夏からの全施設での本格運用が可能となった。

(3) 施設の稼働率等

◆西日本総合展示場本館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
24年度	82	251	68.8	27
23年度	78	238	65.0	18
22年度	81	230	63.0	19

◆西日本総合展示場新館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
24年度	162	282	77.3	45
23年度	141	259	71.5	38
22年度	135	256	70.9	34

◆北九州国際会議場の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
24年度	588	320	88.9	7
23年度	641	319	88.6	7
22年度	819	325	90.5	7

(4) 施設管理等

施設管理面では、お客様の利便性、安全性の向上等を図るため、施設設備の改修更新等を行った。

- *全館共通 : 無線LANアクセスポイント設置工事
- *展示場本館 : 雨漏り防止と消防設備の改修等工事、および美観回復工事等
- *展示場新館 : 椅子等備品類更新等
- *国際会議場 : 高輝度プロジェクター等導入、および椅子等備品類更新等

(5) 指定管理

北九州国際展示場及び北九州国際会議場の指定管理については、北九州市より、効率的な施設運営や地域の振興などの成果や取組姿勢について評価を得ることができた。

また、レストラン施設については、新たな事業者を誘致し、再開することができた。

III 平成24年度決算

1 貸借対照表(総括表)

平成25年3月31日現在 (単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	253,335,928	263,066,507	▲ 9,730,579
受取手形	0	1,863,000	▲ 1,863,000
未収金	27,510,205	27,124,110	386,095
繰延税金資産(短期)	2,151,000	1,250,000	901,000
仮払金	7,079,277	3,762,038	3,317,239
流動資産合計	290,076,410	297,065,655	▲ 6,989,245
2 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	485,052,943	514,904,723	▲ 29,851,780
建物附属設備	21	33,817	▲ 33,796
構築物	789,361	1,376,962	▲ 587,601
機械及び装置	57,567,649	74,587,918	▲ 17,020,269
基本財産引当資産	860,254,896	859,645,239	609,657
減価償却引当資産	1,079,057,917	991,280,174	87,777,743
基本財産合計	2,482,722,787	2,441,828,833	40,893,954
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	142,571,918	147,334,908	▲ 4,762,990
減価償却引当資産	30,739,822	22,590,250	8,149,572
特別修繕引当資産	625,220,525	625,211,525	9,000
事業開催引当資産	7,650,000	7,650,000	0
資産取得資金積立金	0	44,056,302	▲ 44,056,302
施設耐震診断費用準備資金積立資産	40,000,000	40,000,000	0
施設耐震等修繕費用準備資金積立資産	75,000,000	0	75,000,000
企画展開催費用準備資金積立資産	2,625,000	0	2,625,000
施設利用促進等費用準備資金積立資産	13,375,000	0	13,375,000
特定資産合計	937,182,265	886,842,985	50,339,280
(3) その他固定資産			
建物	3,210,481	3,321,046	▲ 110,565
構築物	2,834,573	3,049,277	▲ 214,704
車両運搬具	4,924,348	2,245,626	2,678,722
什器備品	9,203,850	2,165,086	7,038,764

ソフトウェア	199,363	1,021,723	▲ 822,360
繰延税金資産（長期）	309,000	0	309,000
その他目的有価証券	65,000	40,000	25,000
その他固定資産合計	20,746,615	11,842,758	8,903,857
固定資産合計	3,440,651,667	3,340,514,576	100,137,091
資産合計	3,730,728,077	3,637,580,231	93,147,846
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	133,015,450	80,410,107	52,605,343
前受金	20,478,679	60,600,808	▲ 40,122,129
預り金	17,570,550	9,073,540	8,497,010
仮受金	431,000	626,065	▲ 195,065
未払法人税等	20,000,000	17,100,000	2,900,000
賞与引当金	10,953,186	11,289,640	▲ 336,454
流動負債合計	202,448,865	179,100,160	23,348,705
2 固定負債			
退職給付引当金	142,456,518	147,334,908	▲ 4,878,390
固定負債合計	142,456,518	147,334,908	▲ 4,878,390
負債合計	344,905,383	326,435,068	18,470,315
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
寄付金	856,000,000	856,000,000	0
展示場設備受贈益	543,409,974	590,903,420	▲ 47,493,446
基本財産運用益	4,254,896	3,645,239	609,657
指定正味財産合計	1,403,664,870	1,450,548,659	▲ 46,883,789
（うち基本財産への充当額）	(1,403,664,870)	(1,450,548,659)	(▲ 46,883,789)
（うち特定資産への充当額）	(0)	(0)	(0)
2 一般正味財産	1,982,157,824	1,860,596,504	121,561,320
（うち基本財産への充当額）	(1,079,057,917)	(991,280,174)	(87,777,743)
（うち特定資産への充当額）	(794,610,347)	(739,508,077)	(55,102,270)
正味財産合計	3,385,822,694	3,311,145,163	74,677,531
負債及び正味財産合計	3,730,728,077	3,637,580,231	93,147,846

2 正味財産増減計算書（総括表）

自 平成24年 4月 1日

至 平成25年 3月31日（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	19,452,587	18,820,496	632,091
展示場設備受贈益	47,493,446	40,235,006	7,258,440
特定資産運用益	5,015,082	3,262,343	1,752,739
受取会費	5,250,000	367,500	4,882,500
事業収益	618,650,507	457,297,506	161,353,001
受取補助金等	335,440,954	275,946,670	59,494,284
受取負担金	42,543,197	33,664,420	8,878,777
雑収益	19,580,408	14,548,023	5,032,385
経常収益計	1,093,426,181	844,141,964	249,284,217
(2) 経常費用			
事業費	944,116,536	743,925,958	200,190,578
管理費	9,252,255	12,604,605	▲ 3,352,350
経常費用計	953,368,791	756,530,563	196,838,228
当期経常増減額	140,057,390	87,611,401	52,445,989
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
その他経常外収益	1,984,393	234,036	1,750,357
経常外収益計	1,984,393	234,036	1,750,357
(2) 経常外費用			
その他経常外費用	1,627,563	7,183,872	▲ 5,556,309
経常外費用計	1,627,563	7,183,872	▲ 5,556,309
当期経常外増減額	356,830	▲ 6,949,836	7,306,666
他会計振替額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	20,062,900	17,100,000	2,962,900

法人税等調整額	▲ 1,210,000	▲ 290,000	▲ 920,000
当期一般正味財産増減額	121,561,320	63,851,565	57,709,755
一般正味財産期首残高	1,860,596,504	1,796,744,939	63,851,565
一般正味財産期末残高	1,982,157,824	1,860,596,504	121,561,320
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	10,336,650	10,334,407	2,243
一般正味財産への振替額	57,220,439	49,951,786	7,268,653
当期指定正味財産増減額	▲ 46,883,789	▲ 39,617,379	▲ 7,266,410
指定正味財産期首残高	1,450,548,659	1,490,166,038	▲ 39,617,379
指定正味財産期末残高	1,403,664,870	1,450,548,659	▲ 46,883,789
III 正味財産期末残高	3,385,822,694	3,311,145,163	74,677,531

IV 平成25年度事業計画

1 総論

【25年度の展望】

平成25年度は前年度に引き続き、北九州市制50周年記念イベントとして様々な事業が予定されている。

既に、当協会管理の施設においても会場としての利用がいくつも予定されているが、当協会では、これら事業の主催者への協賛、支援、協力を積極的に行うなど、イベントの成功に向けて、取り組みを強化する。

また、平成25年度は現行の指定管理期間の最終年度であるとともに、次期（平成26年度から5年間）の指定管理者選定が予定されている。次期指定管理業務の獲得に向け、一つでも多くの目標達成に向け、積極的に営業活動に取り組みとともに、新たな見本市・展示会、イベントの開催実現に向けて引き続き取り組みたい。

なお、平成25年度の売り上げおよび利益については、現時点では24年度のレベルには及ばないと思われるものの、悪くとも平年並を想定している。

【今後の経営課題】

当協会を取り巻く中長期的な経営環境は厳しく、数年後には競合する周辺他都市との誘致競争がよりいっそう激化することが予想されている。

引き続き誘致・営業の強化や稼働率向上および経営の合理化を図り、これまで以上に自主自立の経営の確立を進めていかなければならない。

【事業推進の方向性】

(1) 公益財団法人としての地位・役割の確立

北九州市制50周年を契機とした地域浮揚に向け、産業の活性化やにぎわいづくり等において、当協会は中心的役割を果たしていくため、

- ・主催事業を行政施策や経済環境などと有機的に連携して実施することにより、産業・貿易の振興、国際交流の推進を図る
- ・コンベンションやイベントの誘致・開催により、北九州市の国内外へのアピールや地域のにぎわいづくりに積極的に取り組む
- ・お客様の満足度の向上と、より効果的・効率的な管理運営を行い、経費の削減に努める

といった事業運営を基本方針としつつ、西日本地域におけるコンベンション開催の拠点として、理想像である「北九州メッセ」の実現を目指すこととしている。

(2) 公益事業の充実（主催事業への取り組み）

西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施策や方針と連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催する。また、新たな事業についても研究を行い、早期の立ち上げを図る。

(3) 北九州市（地域）のにぎわいづくりへの貢献

北九州市制50周年記念関連事業の誘致・協力を行うとともに、国際・全国規模の大会・展示会等の誘致に積極的に取り組み、市域におけるコンベンションの更なる振興を図る。

また、小倉駅新幹線口地区の魅力アップとにぎわいづくりに資するため、平成 25 年 4 月のあるある C i t y オープン 1 周年、及び 8 月の北九州市漫画ミュージアム 1 周年を記念したイベントの開催を検討する。

両施設の開業以来、小倉駅新幹線口地区の歩行者通行量が増加傾向にあるため、同地区の企業・団体や駅南側の商業者などと連携して、当該地区の魅力アップにつながるイベントや事業などを一体的に開催することを検討していく。

(4) 顧客サービスの充実

質の高い貸館サービスの提供や施設の快適な利用環境を確保するため、引き続き施設利用者ニーズの把握と接客接遇力の充実を図る。

併せて、営業上の施策として、施設利用者への広報支援等を充実させるなど、さらなるサービスの向上に努める。

(5) 使い勝手の良い施設へ

各施設・設備についても安全性を最優先に老朽施設の修繕や設備・備品の更新を推進し、施設利用者の利便性・満足度の向上に努める。

特に本館については、築 35 年経過による劣化等に対応するため、維持補修に加え、耐震性の診断調査の実施に取り組む。

(6) 行政との連携

産業観光拡大に向けた取り組み強化を図るため、市役所をはじめ北九州商工会議所等の関係機関との積極的なタイアップを図り、産業観光拡大に向けた取り組みを強化する。

(7) 行政への貢献

エコテクノをはじめとする主催事業の開催等、当協会の活動を通じて、国・県・市の各行政庁の施策振興に貢献する。

2 各論

見本市・展示会事業

(1) 当協会が主催・共催する主な見本市・展示会

平成 25 年度は、事業の再構築に努め、収益のバランスを図りながら、地域における産業・貿易の振興等を目的とする 11 の見本市・展示会を引き続き開催する。

(入場目標：20 万人、出展目標：1,200 社・団体・機関)

(2) 大型コンベンションとの同時開催

共通・類似のテーマを持つ展示会あるいは行政の行う事業とコンベンションを同時開催することにより、来場者の増加や展示会の効率化、また、その相乗効果による商談や交流機会の増幅を図ることで、産業振興やにぎわいの創出に取り組む。

○ 「エコテクノ 2013」ほかと「環境未来都市国際会議」(新規)

※「環境未来都市国際会議」は「第 3 回環境未来都市構想国際推進フォーラム」「OECDグリーンシティアレポート発表記念会議」、「ESD に関するアジア太平洋地域 RCE 地域会議」等にて構成、北九州市のほか、外務省、OECD などが主催。

(3) 見本市・展示会の再構築

各展示会の目的や意義と、社会・経済情勢などを勘案しながら、常に開催内容を見直しつつ、

関心を高める努力を行っていく。また、新たな事業の立ち上げに向け、開発調査に取り組む。

- 「西日本インポートフェア」の内容をリニューアルし、「西日本インポートフェア&食メッセ 2013」として開催。

来場者アンケートで最も関心の高かった「食」にスポットを当て、世界各国の名物料理や食材を提供すると共に、九州各県の名産品や農産物などの提供を行う。

- 「西日本総合機械展」の内容をリニューアルし、「西日本製造技術イノベーション 2013」として開催。

自動車、半導体などの分野から、他の成長分野への参入を模索する地元企業のニーズをくみ、対象を医療・福祉、製薬、環境、食品、化学・素材等にも拡げる。特に「医歯工連携・医療機器産業参入」に重点を置き、記念セミナーを開催する。

- 北九州市制 50 周年記念事業として、「第 22 回日本陶芸展 九州展」を西日本陶磁器フェスタに合わせて開催し、市民文化の向上を図る。

(4) 成果のあがる展示会

主催展示会での販売促進や商談の支援のため、出展社とニーズ企業との橋渡しに努め、ビジネスマッチングの精度や確度を高める。

- 中小企業テクノフェア in 九州 2013 ビジネスマッチング事業
- 西日本製造技術イノベーション 2013 商談会の開催（新規）

(5) セミナー・シンポジウム・併催事業（展示・商談会）等の開催

見本市・展示会やイベントの開催効果を創出するとともに、来場者の関心・参加意欲を高めるため、関連するセミナー・シンポジウム、併催事業を開催する。

- ・セミナー・シンポジウム テーマ数：110 テーマ、参加者数：5,600 人
- ・併催事業 事業予定数：1 事業

(6) 関係団体との連携事業

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、県、北九州市や大学、関係団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図る。

会議・大会等

(1) 様々なコンベンション誘致・支援活動への取り組み

地元のキーパーソンとの信頼関係の維持に努めるとともに、高齢化社会をキーワードとした「健康・福祉」や環境モデル都市としての蓄積や経験を活かした「環境・ものづくり産業」という地域特性に基づいた誘致活動を推進する。

また、海外への誘致活動も推進し、台湾をはじめアジア地域（東南アジア含む）を中心に、直接海外に出向いて国際コンベンションの誘致活動を行う。

(2) コンベンション助成金

北九州市コンベンション開催助成金制度を活用し、経済波及効果の高い大規模コンベンション等の誘致を促進する。

(3) 自主イベントの企画・開催

北九州国際会議場の大型ハイビジョンを活用するなどして、俳句、将棋、映画上映等の文化事業、小倉駅新幹線口のにぎわいづくり事業など、子どもから年長者まで幅広い年齢層を対象

にした特色のある各種事業を行う。

なお、開催にあたっては、事業内容の拡充やPR活動の強化といった工夫を凝らし、来場者増を図る。

貸館利用者の誘致・営業強化

(1) 既存利用者の定着化および復活

既存利用者の定着化や、利用復活を図る取り組みを行う。

(2) 新規利用者の開拓

ア 従来の見本市・展示会以外の新規分野の利用を模索する。

例：企業プライベートショー、コンサートなど文化催事。

イ 各種マスコミとの連携を図り、利用や共同開催などを働きかける。

(3) 主催者への各種支援等

利用者への支援として、集客および広報の支援を行い、施設の利用効果を高める。

(4) 閑散期対策

閑散期対策として、今夏に開催予定の「トミカ博 in 北九州」や正月イベントの共催事業などを軸に、新たな事業を実施する。

広報・宣伝、地域連携

(1) 広報・宣伝

ア 媒体を活用した広報

協会ホームページの活用に加え、情報誌の発行、新聞広告、JR主要駅やモノレール各駅へのポスター掲示などの広報活動を実施する。

イ 協会の活動のPR

協会の活動状況や地域への役割についても、積極的にPRを行う。

(2) 地域連携

ア 小倉駅新幹線口地区におけるにぎわいづくりイベント開催の検討

同地区の魅力アップとにぎわいづくりに資するため、北九州市制50周年記念関連事業への協賛、支援、協力を積極的に行うとともに、「あるあるCity」などと連携したイベントの開催を検討する。

イ 小倉駅新幹線口地区振興連絡会等との連携

小倉駅新幹線口の回遊性、利便性を高め、持続的なにぎわいと地区の魅力向上を図るために作成した「新幹線口地区ぐるりマップ」を活用したPRを行う。

また、当該地区の企業・団体との交流や情報交換を活発に行うため、意見交換会や交流会、地域の清掃活動などを開催する。

管理・運営

(1) サービスの向上

ア 「フロアガイド」を新規に作成するなど、施設アクセスを改善

イ 全館で公衆無線LANの運用を開始

ウ Webを活用した利用料金シミュレーションシステム等の構築

エ ビジネスサポート提供サービスの導入検討

(2) エコアクション 21 認証の更新と取り組み

平成 25 年度においても、当協会が主催する環境見本市「エコテクノ」の開催を通じた地域社会への環境意識の向上に努め、同展での最新の取り組みをPRする。

(3) 施設の改修等

ア 西日本総合展示場本館

① 当財団の基本財産である本館について現地調査及び構造・診断計算等、所定の耐震診断業務を本年度末までに完了する。

② また、老朽化が進んでいる「屋根防水・雨水管」、「空調ガスヒートポンプ設備」、「消防設備」、「放送設備」の予防保守を実施する。

イ 西日本総合展示場新館

① 交換部品が製造中止となり、故障時の業務への悪影響が懸念されていた電話機・PHS・構内電話交換機（PBX）及び頻繁に不具合が発生していた各室の電子錠を制御する磁気カード施錠型鍵管理システムを更新する。

② 新館天井面に設置している照明・美術バトンのロープ、ケーブル、巻上げ機の段階的な改修提案や入場者カウンターシステムなど、利便設備の更新を北九州市に要望する。

③ その他の改修として、煙探知機など、法令に定められた消防設備等の不具合に対応する。
また、汚損されることの多い机、椅子など利用頻度の高い備品類のメンテナンスを拡充する。

ウ 北九州国際会議場

① 空調中央制御監視装置など、施設全体の空調管制システムを更新する。

② 耐用年数末期を迎え、大規模改修となる受電設備や照明電源設備など、基盤的設備について引き続き改修要望する。

会議場も電話機・PHS・構内電話交換機（PBX）の更新とともに、イベントホールのガラス面遮光設備の設置を北九州市に要望する。

③ その他の改修として、壁面などの美観保全工事や冷温水配管のバルブ故障など、水回りの老朽化に伴う補修工事を適宜実施する。また、屋外喫煙所の屋根整備やメインおよびサブ・エントランス出入口の段差解消などの対策を検討する。

北九州市制 50 周年関連事業の展開

北九州市制 50 周年記念事業として様々な事業が予定されている。

こうした動向を踏まえ、市と連携しつつ効果的な事業展開を図る。

ア 50 周年事業と位置付け、市と連携した開催内容の充実等を図る協会主催事業

○ すべての主催事業およびセミナー・シンポジウムおよび併催事業

特に、今年は「日本陶芸展 九州展」を開催する。

イ 当協会が誘致し、市などと共催で開催する事業

○ 日本スポーツマスターズ 2013 北九州大会（9 月）

○ 第 39 回将棋の日 in 北九州（11 月）

V 平成 25 年度予算

1 収支予算書(総括表)

自 平成25年 4月 1日

至 平成26年 3月31日 (単位：千円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引控除	合計
I 一般正味財産増減の部					
1 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	9,000	0	8,423	0	17,423
展示場設備受贈益	37,767	0	0	0	37,767
特定資産運用益	2,974	0	0	0	2,974
受取会費	5,300	0	0	0	5,300
事業収益	293,507	285,417	0	0	578,924
受取補助金等	328,892	0	0	0	328,892
受取負担金	13,410	12,120	0	0	25,530
雑収益	3,723	12,316	0	0	16,039
経常収益計	694,573	309,853	8,423	0	1,012,849
(2) 経常費用					
事業費	796,273	197,276	0	0	993,549
管理費	0	0	10,114	0	10,114
経常費用計	796,273	197,276	10,114	0	1,003,663
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 101,700	112,577	▲1,691	0	9,186
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	▲ 101,700	112,577	▲1,691	0	9,186
2 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
その他経常外費用	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	56,288	▲ 56,288	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	0	16,000	0	0	16,000
当期一般正味財産増減額	▲ 45,411	40,288	▲1,691	0	▲ 6,814
一般正味財産期首残高	1,526,605	128,131	▲1,282	0	1,653,454
一般正味財産期末残高	1,481,194	168,419	▲2,973	0	1,646,640
II 指定正味財産増減の部					
基本財産運用益	0	0	8,789	0	8,789
一般正味財産への振替額	37,767	0	8,423	0	46,190
当期指定正味財産増減額	▲37,767	0	366	0	▲37,401
指定正味財産期首残高	688,608	0	859,394	0	1,548,002
指定正味財産期末残高	650,841	0	859,760	0	1,510,601
III 正味財産期末残高	2,132,035	168,420	856,787	0	3,157,242

VI 役員名簿等

1 役員名簿

平成 25 年 7 月 1 日現在

役職名	氏名	備考
理事長	利島康司	北九州商工会議所 会頭
専務理事	古賀敬三	常勤
理事	西田幸生	北九州市産業経済局長
〃	田中亮一郎	北九州市にぎわいづくり懇話会 副座長
〃	安部高子	北九州商工会議所女性会 副会長
〃	廣瀬香	(一社)九州経済連合会 社会資本部長
〃	村上英治	(一財)九州産業技術センター 常務理事
〃	関宣昭	NPO法人里山を考える会 代表
監事	鈴木雅子	北九州市会計室長
〃	羽田野隆士	北九州商工会議所 専務理事

2 市との特命随意契約の状況（平成24年度実績）

市からの特命随意契約による委託の状況			左のうち外郭団体からの再委託の状況				
委託業務名	委託金額 (千円)	特命理由	再委託の 業務内容	委託 金額 (千円)	契約 相手	契約 方法	特命随意契約の 場合その理由
大規模コンベンション 関連調整業務	4,095	本市唯一のコンベンション推進機関であり、現在実施中の誘致業務との連携及び主催団体等との幅広いネットワークを有し、調整できる団体は同協会以外にいない。	再委託なし				
ロボット産業マッチングフェア北九州会場運営業務	3,368	同協会が主催し、西日本総合展示場で開催予定の西日本機械展と合同で行うことにより、集客を高めることができる。当マッチングフェアの会場装飾についても、運営全体を考慮して、内容面、経費面でより効果的な実施が可能である。	再委託なし				
合計	7,463		合計	0			